

伝統技法「彫り」を応用した食器のデザイン開発

1. はじめに

常滑産地には古くからの伝統技法がいくつもあります。今回は伝統技法「彫り」を現代的にアレンジし、食器類のデザイン開発に応用しました。

2. 常滑焼伝統技法 彫り

通常、陶磁器製品に文様などを彫る場合は、割れや欠け、バリが無いよう素地が乾燥する前に仕上げるのですが、常滑焼伝統技法の彫りは素地が完全に乾燥した状態で彫り込みます。そのため線の際は細かく割れたり欠けたりしますが、そこが一つの見所となっています。

その他の特徴として、以下が挙げられます。

- ・彫りには墨入れをしたものと彩色したものがあり、墨入れをしたものは絵柄の他に文字、細字(さいじ)などがあります。彩色したものは東海道五十三次などの版画や浮世絵などが題材として好まれます。(図1)

- ・彫りに使う印刀には小刀、丸刃、丸刀等があり、小刀は細字から輪郭線、面など使用範囲が広く、丸刃、丸刀は花びらや松の幹等の文様を彫るのに使用します。

- ・成形時に器体表面を念入りに磨きます。これは細字などの細かい彫りを活かすためと、墨入れによって器体が汚れるのを防ぐためです。



図1 伝統技法「彫り」
(左から 彩色(壺堂作)、細字(譲楽作))

3. 彫りのアレンジ方法

伝統工芸士の作品は極めて高度な技術によるもので、到底誰もが容易に製品に採り入れられるものではありません。このため、本研究では彫りを線画と捉えることで簡略化し、輪郭またはそれに準ずる線で表現しました。絵柄はシンプルなもの、幾何学柄などを採用し、彩色はステンシルを用いたもの、スポンジによるスタン

プ技法など、熟練者でなくても表現可能な技法を心掛けました。

4. 試作

素地は平成22年度に開発した鑄込み締土と基礎締土からなるブレンド土を用い、顔料を添加して色彩を調整しました。また、この素地は絵付けにも用いました。

図2は試作品の皿です。彫りを活かすために特にリムを大きく作ったもので、特徴的なデザインとなっています。



ステンシルを用いた例



スタンプ技法による北欧柄 墨入れによる民族柄
図2 試作品(皿)

図3は試作品のポットです。左はポットと皿に同柄の木の葉文様を施し、北欧風の表現をしたもの、右は朱泥の器体下部に蓋、持ち手などと同色の黒い顔料を混ぜたブレンド土を帯状に塗り、そこに彫りを施すことで素地の朱泥を見せたものです。



ステンシルによるポット 「彫り」によるポット

図3 試作品(ポット)

5. おわりに

常滑焼には、彫り以外にも高度な技法を駆使した素晴らしい陶磁器製品がたくさんあります。ぜひ一度常滑において下さい。



常滑窯業技術センター 材料開発室 山田 圭 (0569-35-5151)

研究テーマ: 伝統技法を用いた現代的な常滑焼製品のデザイン開発

担当分野: デザイン